

第二卷 紹介 圖 書

第三號 一五四 (五二五)

育整備と専門史家續出せるに拘らず、讀史の風史家の聲望昔日に及ばざるは識者の一考を煩はすべきものなりとせるは蓋し本書一篇の主旨なるが如し。されば是等諸大家の評傳に於ても、此點に對する觀察重きを占め、最後の章「歴史家とその出版者の如き、全くこの見地より附加せられしものなり。是故に本書は嚴正なる意味に於ける史學史としては不十分なるを免れざれども、かゝる着眼點より觀察するものには興味深き著述といふべく、兎に角この時期に於ける米國史學界に關する知識を求むる人士には尠からざる傾益を與ふる著書なるべし。

● Arthur Bullard: the Diplomacy of the Great War. New York, 1916

著者の序言に據れば本書は歐洲現代の外交史を考察するもの、爲に「Text-book たるしむる目的を以て著されしものなり。第一篇には一八七八年伯林會議以後に於ける歐洲國際關係の發展を叙し第二篇には該期の外交に現れたる New ideas, new elements として the Rights of Nations, Dollar Diplomacy, the Colonial world, the Growth of Public Opinion. (國民主義、産業政策、殖民政策與論の興起を指す) を説き、第三篇には現戰役の終結に伴ふ諸問題の解決を豫想として、軍事、外交上の推測より協、商、側、の要求、戰利の分配問題、土耳其の運命に及び、更に獨逸戰勝の場合を論じ、戰

後の國際外交、民主的勢力を説き最後の第四篇には合衆國と歐洲列國との關係を叙し、米の「Traditional foreign policy」戰役に對する米の態度、國防問題、米國と平和問題を述べ、卷尾に簡便なる Bibliography を附せり。兎に角一般向にして elementary なるを目的とせる本書は現代外交の大勢を知らしむべき好箇の手に引たるべし。〔以上植村〕

● 中支那及南支那

東京地學協會著

東京地學協會の支那調查事業は明治四十三年より始まり、其第一回の調查報告として大正二年楊子江流域を出したるが、本書は其後に次ぐもの主として理學士野田勢次郎氏の踏査研究の結果なり、章を分ちて位置及區劃、地形、氣候、住民、人口及都邑、交通、産業とし完備したる一の地方誌なれども、就中著者の主力を注ぎたるは地質地形等の自然的方面にして、本地域を南北の地帶構造線によりて、印度支那山系、西部高原地帶、中央地溝帶、東部地壘帶、沿海山地帶に分ち、殊に其最後の部分即ち南嶺の大部分の地質構造に於ては從來の疑問に對して一の解決を與へたり。次に水系に就きても、各河流を源流、上流、中流、下流に分ちて、其流路の地質、地形との關係を明かにするに力め、本支流を合せる流域圖を添付せる等、邦文の地理書としては斬新なる試みと謂ふべし、尙住民、交通、産業の部は著者の實査に基けるものゝみに

あらざれども、從來の記述方法より進みて、其等が自然に如何に影響せらるゝかに意を用ひたり。本書中收むる多くの地圖寫真類は何れも出色のものなるが、殊に前者にては山勢圖、水系圖、地方語及住民分布圖貨幣流布區域圖後者にては福建省廈門全景及閩浙沿岸の地形、湖北省武漢全景及湖廣盆地の地形杭州海嘯等は地理學的考案を主としたる著者の新工夫になれるものとす。之を要するに、在來の支那に於ける舊地理書乃至西洋人の報告等より更に進みたる研究にして根據薄弱なる多くの材料を蒐集して編纂せる地誌と同日の論にあらず。從來種々の點に於て不明なりし本地域殊に南支那の地質地形が著者によりて稍確實に知られ、從つて東亞の地帶構造を定むる上に資する所尠からず。是れ本書を以て一般の支那地誌研究資料として推奨するのみならず、斷學界の權威として尊重せんとする所以なり。(同會發行價六、〇〇)

●支那之工業

東亞同文會編

近時支那に於て大規模の機械工業が漸次興らんとする傾向あるは我對支政策上頗る重要視すべき點なり。之に對して、我が支那貿易の一時の不利を虞れ、之と競争して其勃興を抑壓せんとするは未だ大局に着目せるものと謂ふべからず。勿論支那に於ける工業の發達の爲め幾分我が生産に影響を蒙るべきも、我が對支經濟發展の根本方針は支那に投資して彼地の原料を使用し工業を起すよ

り勝れるはなし。尙其れに従事する爲め、多くの本邦人の殖民を獎勵するは、一舉兩得の良策なり。本書は東亞同文會編纂部に於て出版せる支那經濟叢書の第二卷にして、主として元農商務省關託山田修作氏の調査に係る。題して支那之工業といふも、記する所は支那の特産たる固有の工業にあらずして新興の機械工業及模倣工業なり。初めに原料、資本、勞働者等の一般的事項を説明し、次に綿絲紡績、毛織物、燐寸、製紙、製糖、製鐵等の各論に及び、其各項に就きて事業の沿革、現狀、生産實、其に對する外國品、相場、關稅及生産の將來を論述せり。本書の主眼とする所は其等の多くの工業の中邦人が支那に於て經營し、成功の見込あるは何々なりや、又其等と本邦製品との關係如何等を述べて、我が企業者に資せんとするにありと雖も尙各種工業の過去現在の真相及未來に就ても之れを記し、加ふるに本書の前半には一般論例(へば支那の工業組織(公司及其現狀)合辦事業等の記事)を載せたるは支那經濟地理學研究の一助たるべし。(同會發行價二、〇〇)

●香港事情

外務省通商局譯

香港は英國の領有後僅かに七十五年に過ぎざるも英國人の不撓の努力によりて、遂に葡の澳門の商權を奪ひて東洋貿易の策源地となり、自由港として、又中繼貿易港として、最も成功せるもの、一なり。本書は外務省通商局に於て領事其他の在支那官吏及英國

の官憲等の調査を基礎として編纂せしもの、編を分ちて地理沿革、衛生、政治、財政、治安、港灣、交通、通信、土木、貨幣及金融、商事、貿易、工業、農礦、漁業、移民及労働、教育、宗教、井に公益施設、在留本邦人とせり。全編三六〇頁の内かく多くの事項を網羅せる爲め地理、沿革の部の如きは其記事極めて簡單にして而も個々の材料の羅列に過ぎず、然れども此等の事情を明かにするは本書の主眼にあらず。商事、貿易、交通の編の如きは皆に商業殖民地として英國人の奮闘及成功を示せる本港の状態を知らしむるのみならず、本港の南支及東亞の貿易上の地位を明かにするに資すべし。(啓成社發行價一、五〇)(以上田中)

●Martinez, A. and Lewandowski, M.:

The Argentine in the Twentieth Century. 1915.

London. ¥ 2.75

單行本又は叢書として、近時南米に關する著述の公刊せらるゝもの其の數甚夥からずといへども、此の書の如き良書の一なり此の書はもつ The Modern World Series の一にして、而も同叢書既刊中にありては唯一の南米關係の書とす。其の初版は十數年前、西班牙語を以てせられたるが、後佛語にて訂正増補せらるゝ所あり、かくてそれより英譯せられたるものが即ち此の書なり、英譯初版の年一九一一年より今日に至るまで、既に版を重ねる事

三度に及べり。思ふに南米開發は近時に於ても世界の一大問題にして、其發展は列強の注目せる所なり。南米諸國中發達の最も迅速なるは、いふまでもなく亞爾然丁とす。其の最近の發展は實に日本と共に、世界中の奇蹟と稱せらる、例へば耕地の如きは、一九〇九年に至る過去四ヶ年間に、二千五百萬エーカーより一躍三千五百萬エーカーとなりて、七割五分の増加を示せり。又此の間に於ける穀物收穫の貨額約二千萬圓より一億八千餘萬圓に激増せり。されば廿六七年前までは、パンの原料として麥粉を輸入したりし此の國が今や一人一噸當の生産額を示し、盛に海外に輸出するに至れるなり。又畜産を見るに、過去廿年間に於て、羊のみは七百萬頭を減じて六千七百餘萬頭となれるも、一般に多大の増殖を示し、牛は三百餘頭を増し、其の他にも八百餘萬頭の増數を見るものある程にて、全家畜の價格は實に廿億圓と見積らる亦盛なりといふべし。此の書は即ち亞爾然丁の農作物及其の加工品、畜産、礦産等に就きて、正確なる統計によりて之を説述し、(第二章第三章)貿易及金融機關等を論じ、(第三章)最後に財政上の研究を試みたり(第四章)此等は何れも地理學研究上參考すべき所甚だ多し、而も全卷の約三分の一を費せる自然地理上の條件、鐵道及び移民と拓殖(第一章)の部門は極めて意義深き文字あるを認めしむ。書中に取扱はれたる統計上の數字は、英譯初版の年に於ては